

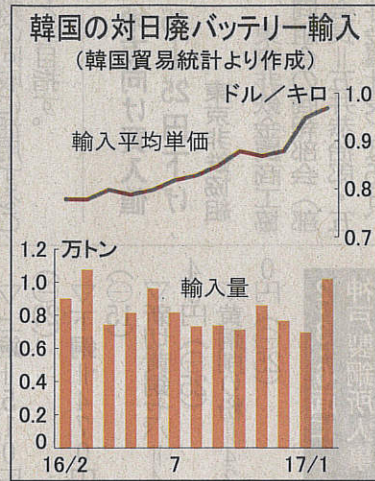
# 廃電池、対日輸入1万ト、超 規制にらみ駆け込みも

## 2月韓国

韓国関税庁がこのほど発表した貿易統計によると、2月の日本からの廃バッテリー（使用済み自動車用鉛蓄電池）

輸入量は前月比46・4%増の1万218トで、11カ月ぶりに1万トを上回った。輸入平均単価は2倍高の97ドル。2月の総輸入量は4カ月連続で4万トを上回り、対米国が1万2584トで最多だった。

鉛リサイクル原料である廃バッテリーは、精錬能力を拡大してきた韓国二次精錬筋の高値買いが続いており、日本国内の原料不足や調達難の原因となっている。昨年11月の8606トからは2カ月連続で減っていたが、2月は昨年3月以来、過去3回目の1万ト超えとなった。



違法投棄問題を受け、経済産業省は1月、輸出承認済みの案件でも不適正処理が疑われる場合、許可済みの輸出でも停止できる措置を取ることを決めた。また、環境省は輸出先の適正処理を証明する書類提出を盛り込んだバゼル法改正案を策定。実施予定は6月だが、政府の取り締まりを意識して輸出が加速している向きがある（国内の二次精錬メーカー）。

価格指標とされるロンドン金属取引所（LME）鉛相場は2月半ばにトン2400台半ばへ上昇し、月間平均は3年ぶり高値2322に達した。価格面でも環境が整い、韓国側の輸入平均単価は高値を更新。3カ月でキロ10アップし、2014年10月以来となる97を付けた。

総輸入量は前月比2・4%減の4万3677トで過去3番目の高水準。輸入相手国の主な内訳は米国1万2584ト、日本1万218ト、アラブ首長国連邦（UAE）7607ト、ドミニカ共和国2696ト、トーゴ2333ト、シンガポール1496ト、ニュージーランド1401ト、ブルネイ1104トと続いた。

米国、日本、UAE 3カ国で70%を占め、中でも対米輸入は1月の1万3550トからは減少したものの、昨年平均の約2倍に増えている。この対米輸入の拡大は、鉛地金や鉛バッテリー製品の輸出拡大とも連動しているほか、今後減る見通しがある対日輸入の代替輸入先として、調達ルート強化しておく狙いがあるとみられる。なお、韓国の2月の精製鉛（電気鉛品位）輸出は3カ月ぶり高水準3万1716トに達し、そのうち米国向けは65%の2万619トを占めた。